

【学校教育目標】	【本年度の重点目標】
夢を抱き、未来を生きぬく豊かな心とたくましい実践力を身につけた児童の育成	○組織的な取組の充実    ○校務分掌組織の改善    ○実践的指導力の向上    ○自己指導能力の育成

領域	項目	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策	
組織・運営	校内組織の充実	学校経営の基盤である「教育・経営課題」を理解し、その解決に向けて努力している。 〈結果〉学校経営に関する評価項目は、改善され組織的な取組みなできていると考える 〔教員AB評価100%〕	4	・今後小中一体となる碓井地区で特色があるとよいと思う。例えば、小中での縦割りの活動等を計画してほしい。	小中一体校を視点に入れ継続実践していく。
		校務分掌(各種委員会等)に自ら主体性を発揮し、協働体制で取組を行っている。 〈結果〉各種委員会は定期的に実施し、各係が責任を持ち組織的に取り組んでいる。また、課題に対して改善策も提案されている。 〔教員AB評価100%〕	4	・本来の学力とは何かを職員で意思統一して、さらに実践を進めてほしい。	今後も組織的に協働体制で実践していく。
		学年・専科(学年スタッフ)等、共通理解のもと協働して、教育活動や学校運営を行っている 〈結果〉定期的に専科会議、学年部会議、同学年会議を行い、共通理解の場を設定し、取り組むことができた。 〔教員AB評価97%〕	4	・環境を整え、清掃等にも力を入れられ良い雰囲気だと思う。 ・草刈りが良くできている。	教育環境整備を整え、PDCAのサイクル化によるマネジメントを実践していく。
		学力向上プラン・体力向上プランを機能化する学校組織 〈結果〉学力向上についてはコーディネーターを中心に協働体制が取れた。体力については、体力習慣の内容の検討していく。 〔教員AB評価74%〕	3	・少人数ならではの学力向上の取組 ・体力、学力だけにこだわることなく子どもの健全育成をお願いします。 ・女子の運動嫌いを課題と考える。 ・学力、体力の具体的な目標を設定すると達成感が出ると思う。 ・徒歩での登校は体力作りには大きいと考える。	学力向上コーディネーターを中心に協働体制を強化する。少人数指導など学力向上の手立てを工夫する。 体育主任を中心に協働体制を強化する。体力テストの実態を踏まえコーディネーショントレーニングを取り入れ実践を継続する。
	総合所見	教育目標・重点課題の共有化は出来つつあると考える。今後も、重点課題の解決に向けた取組を提案していく。		学校全体として、落ち着いた学習環境が出来ています。	基本的な生活習慣の育成や規範意識の育成を大切にし、組織的に学力向上や体力の向上に向けて教職員の共通理解のもと重点課題を意識した取組の充実を図る。
生徒指導	自尊感情	友達のことや自分自身を大切にすることができる児童の育成 〈結果〉道徳の学習や人権学習に取り組む、日常的に児童の支援を行った。 〔児童AB評価94%〕	4	・友達の良いところ見つけはよく聞きますが、自分の良いところ自慢や自分自身をみつめPRするのもよいのでは。 ・自分を大切にするとともに、友人を大切にすることは素晴らしい。	今後も計画的に道徳教育や人権教育を推進し、内容充実を行っていく。
	規範意識	ルール・マナー・モラルを守り目標を持って行動し、元気よく挨拶する児童の育成 〈結果〉日常的に教師の支援が行われた。 〔児童AB評価93%〕〔保護者AB評価79%〕	4	・いつも元気な挨拶で地域の私たちも元気が出ます。 ・話を聞く態度や心構えは保護者にも必要かもしれません。 ・日常にある課題について考えさせてはどうか。 ・清掃指導等に力を入れては。 ・交通指導の方には進んで挨拶できる児童であってほしい。 ・子ども達も明るくはきはきとしている ・挨拶はよくできている。また、止まってくれた車に会釈をする子どもいる。	今後も日常的な指導と計画的な指導を行っていく。家庭との連携をさらに進める。
		良いところをしっかり誉めたり、悪いことはきちんと指導したりする教師 〈結果〉鍛えて誉めて伸ばす指導を実践した。 〔児童AB評価97%〕	4	・教師と児童との良好な人間関係づくりが大切である。	児童を鍛えて誉めて伸ばし、児童・保護者と人間関係を築き、凛とした態度で指導していく。
	いじめ不登校	共感的人間関係づくりを行いいじめ防止に努める。また、不登校児童を減らす。 〈結果〉いじめ防止についてはアンケートを定期的に実施した。不登校を減らしたアクション3の実践した。 〔教員AB評価97%〕〔保護者AB評価89%〕	4	・遅刻、不登校は家庭教育にも課題があると思う。 ・遅刻、不登校は保護者との連携が大切と考える。	今後もアクション3の実施と関係機関との連携を行う。
	総合所見	規範意識の醸成について、職員が共通理解のもと取組を進めた。今後も基本的には本年度と同様に取組を進めて行く。特に不登校の解消に向けては、組織的な対応を工夫して取組を構築する。		日常の取組を大切にして、今後も取組んで行ってほしい。	積極的な生徒指導の取組により、児童は落ち着いた学校生活を送っていると考えるが、教職員が児童を見て、指導の様子の変化を観察し、いじめ等の早期発見・早期対応に努める。

学習指導	家庭学習	家庭学習・自学の習慣が身についた児童の育成 〈結果〉称賛活動や掲示物で取組をほめてきた。 〔児童AB評価85%〕〔保護者AB評価84%〕	3	・子どもが学習している時は保護者も本を読むなど、スマホを扱わないなど家庭での取り組みが大事と考える。 ・自学のテーマを絞り込んで決めさせ取り組んでほめる。 ・保護者は学校にたよればなしになっている。	「家庭学習のすすめ」の中に、学習中の保護者の協力体制等を入れていく。今後も称賛活動を進めていく。
	授業づくり	言語活動を取り入れ、分かる授業づくりに努める教師 〈結果〉主題研修で授業づくりについて取り組んだ。 〔児童AB評価90%〕〔教員AB評価92%〕	4	・新聞の子ども版のコラムを音読する。文章を書き写す。分からない語彙を調べなど、正しい日本語を読み書きする習慣をつける。国語はすべての教科につながる大切なものであると思う。 ・分かる授業の前に学習規律の徹底が学力向上につながると思う	主題研究をもとに、言語活動を取り入れ分かる授業づくりをさらに推進していく。
		校区の「人・もの・こと」を取り入れた授業 〈結果〉総合的な学習の時間に取り入れた実践 〔教員AB評価94%〕	4	・校区の文化の紹介は、大切なことと思う。 ・米作り子ども達に大切な体験です。関わって感謝しています。	今後も校区の「人・もの・こと」を計画的・意図的に取り入れた授業実践を推進していく。
	総合所見	学力向上を目指し、児童の実態に基づいた指導体制や授業づくり研修を進めて改善に努める。		今後も保護者との連携が必要と考えています。	学校として、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。しかし、学力向上について、家庭に家庭学習の習慣化に向けての連携をさらに進めていきたい。また、少人数指導の成果を問われたときに説明できる取組を構築する。
研修	主題研修	主題研修を計画的に行い、指導力を高める教師 〈結果〉金融教育の研究発表会を開催することができた 〔教員AB評価94%〕	4	・研修の努力が子ども達に基礎的、基本的なことが身につく、学力アップにつながっていると思う。	今後も主題研修を生かし、指導力を高め分かる授業づくりに取り組む。
	一般研修	一般研修で効果的に指導力を高める教師 〈結果〉講師招聘を行い研修を行えた。 〔教員AB評価85%〕	3	・特別支援、生徒指導において、指導主事の招聘の研修ができたことは評価できる。	今後も一般研修を生かし指導力を高め教師の資質・能力を高める。
	総合所見	校内の授業研は、ほぼ計画通り実施したが教員の指導力向上に効果的だった検証が必要である。		今後も研修を頑張って、自己研鑽に努めてほしい。	研修の目指すところを明確にし、計画的な研修を進め、教員の資質向上を図る。
保護者・地域との連携	保護者	学校は子どものことを理解して指導してくれている。 〈結果〉保護者から信頼されるように日常的に連絡を取ってきた。 〔保護者AB評価94%〕	4	・学校をつくっていくのは保護者との関係づくりは不可欠である。特に学校の味方を多く作る必要がある。その為の策も必要である。 ・子どものことを理解した指導を今後も進めてほしい。	今後も保護者との関係づくりを常に意識し、学校運営・学級経営に生かしていく。
	PTA	保護者は学校行事やPTA活動に参加している。 〈結果〉授業参観は多くの方が参加している。 〔保護者AB評価62%〕	2	・集会等で先生方の出し物もあつたらよいと思う。 ・学習参観に多くの保護者が参加していることは素晴らしい。 ・PTA活動をさらに推進してほしい。	PTA役員と連携し、さらにPTA活動の活性化を推進していく。
	地域	学校は家庭や地域に子どもの「よさ」を知らせる広報活動を行っている。 〈結果〉学級通信・学校便りを定期的に発行することができた。 〔保護者AB評価93%〕	4	・毎月回覧板で、学校便りを読んでいる。様子が分かる。	今後も定期的な学校便りを発行したり、新聞に掲載したりして広報活動を進める。
	総合所見	PTA活動は、児童と家庭、児童と地域、家庭と地域を結ぶ重要な活動である。学校行事との連携を図り、行事に全家庭が参加するようなPTA活動になるように改めていきたい。		おおむね、落ち着いた学校生活を児童は送っていると思います。保護者や児童から信頼される教師集団であってほしいと考えています。	学校行事との連携、地域行事との連携を図るかたわら、PTA活動を見直し負担を軽減することによって気持ちよく活動できる活動にする。